

循環型社会推進基本計画フォローアップ  
スケジュールについて（案）

平成17年

8月31日 中環審循環型社会計画部会審議開始（第1回目）

審議の進め方

環境基本計画見直しとの関連

国の取組について関係省庁ヒアリング

自治体調査結果の報告

9月中～下旬 循環部会地方ヒアリング

自治体、NGO等、事業者に対するヒアリング

\*東西2カ所（福島県、京都府）で実施。

10月下旬 循環部会（第2回目）

地方ヒアリング結果の報告

点検報告書（骨子案）の審議

11月中旬 循環部会（第3回目）

点検報告書（素案）の審議

11月中～下旬 点検報告書（素案）のパブコメ

パブコメ後 循環部会（第4回目）

点検報告書決定

点検報告書決定後 閣議報告

\* 環境基本計画の見直し作業によっては変更あり得る。

## 循環基本計画第1回フォローアップにおける主な指摘事項

### 物質フロー指標

- ・現行基本計画の検討課題となっている隠れたフローや個別品目ごとの物質フロー等の把握方法をどう考えるか。
- ・大規模公共工事に伴う一時的な資源の投入の影響を緩和する補助的指標が考えられないか。
- ・資源生産性、循環利用率等のデータが古い。パイロット的な指標の活用や、速報値を出す等の工夫が必要。

### 取組指標

- ・アンケートの取り方を工夫することが必要。特に、自治体関係者の主観的な答えとならないような工夫ができないか。(グリーン購入の自治体の取組数値が下がっているのが問題)
- ・地域ごとの取組状況や目標が分かるような指標を考えられないか。

### 地方公共団体の取組

- ・地方の過半数で循環計画を策定していないのは問題ではないか。14公共団体からは循環計画を策定する予定がないとのことだが、その実態を把握するようにしてもらいたい。

### NGO・NPOの取組

- ・資源循環の観点からのNPO、NGOの問題意識が明確になるようなデータは得られないか。

### 循環ビジネスの範囲

- ・循環ビジネスの範囲が調査年度によって異なる場合があり、経年的変化が把握しにくい。

### 海外を含めた資源循環の把握

- ・廃棄物の輸出が増えている中で、東アジア全体での物質循環の状況を把握していく必要がある。
- ・資源の輸出量が増えているが、その要因を把握する必要があるのではないか。

### パブリックコメントの実施

- ・パブリック・コメントの反響が小さい。もっと注目されるような工夫が必要。

### その他

- ・物質フロー指標など、将来的に数値目標を設定する際には、いろいろな仮説を立てて幾通りかのストーリーを提示することにできないか。
- ・バイオマスの活用には産業的な側面があり、現在のように、単純に自然界の物質循環の中に入れてしまって良いのか。
- ・国の取組に関して、環境教育がどこまで循環を意識しているのかわかりにくい。